

2022（令和4）年10月16日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第11期・第14回）の議事録は次のとおり。

1 開会

（事務局）

- ・ 本日は傍聴者がいるため、御了解いただきたい旨を説明した。
- ・ 会議のルール、会議の録音、欠席者及び配付資料等について説明した。

<前回の振り返り、本日の流れについて>

（サリ アビシエク 委員長）

- ・ 前回は、各提言について、改めて提言したいこと、想定する実現方法、提言理由、懸念点などを御説明いただき、提言内容の共有を行った。
- ・ 事務局からも、何点か記載内容を見直した方がよいと思われる点などについて、アドバイスをいただいた。
- ・ 第11期の会議は今回が最後なので、前回からの修正点などを含めて内容を共有し、最終報告の記載内容を確定していきたい。
- ・ 委員全員からのメッセージや委員長あいさつについても、ある程度固まってきたので、全てを確定させて、11月の知事報告に臨みたい。
- ・ また、12月のあーすフェスタにおける発表について、何名かの委員の方々には個別に連絡して御協力いただけることを確認しているが、実際にどのような形で進めるかも御相談させていただきたい。

2 議題

(1) 全体会議（報告書の最終確認、発表準備等）

（サリ アビシエク 委員長）

- ・ 資料2の1ページに記載されている委員長あいさつの内容について、修正すべき点があれば御意見をいただきたい。

（事務局）

- ・ 4段落目の「私たち第11期の（中略）スタートしました。」という文は、3段落目の前に移動した方がよいのではないかと。「スタートしました。」の後に「今期の外国籍県民かながわ会議は、」とした方が、流れがよいのではないかと。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 冒頭でコロナについて触れていて、その流れで「今期はリモートの会議が多かったが、終盤になってようやく対面で会えた」と書いているため、そこに何か国の何名と書くと、不自然になると思った。このままにするか、1番最初に持っていくか、個人的にはどちらかだと思ふ。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ 「私たち第11期の」という文を、「コロナの影響は」の前に持っていく方がよいのではないかと。

(事務局)

- ・ 1段落目はオリンピックが無観客になった話、2段落目は外国人数が減少したことが書いてあり、コロナの話でつながっているのだから、間に文を入れるのは得策ではないかもしれない。

(河 相宇 委員)

- ・ コロナの影響で外国人数が減少したこと自体は事実だが、減少したことのみにてなく、コロナが収まれば再び増加することが予測されるという感じの記載にした方が、会議の重要性が伝わると思ふ。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ そのとおりで思ふので、追加したい。
- ・ 様々な国籍やアイデンティティの外国籍県民がいるということとその後ろに書いており、それも考慮して「私たち第11期の」という文をここに置いた。適当に移動すると文章の流れが崩れてしまう。

(事務局)

- ・ 狙いがあるここに置いているなら、元のままでもよいと思ふ。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 外国人数が減少したが再び増加するという文は、どこに追加するか。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ そそもまた前後のつながりに関わってくる。一旦人数は減少したがこの状況が続くわけではない、コロナ後は県民会議の重要性が更に増すとといった内容を、一箇所ではなく、複数箇所に書いたらどうか。

- なお、委員長あいさつで提言の内容には深く触れていない。委員一同の文章に記載があり、各提言に趣旨も記載されているため控えた。

(楊 芳 副委員長)

- 人数が減少したという段落は削除できないか。無観客のイベントがあったという話の後に、リモートで会議をスタートしたというつなぎにしてはどうか。人数が減少したという話は、また今後増えていくのでこの会議は大事という形で、後半のどこかにまとめた方がつながりがよい。減少したことだけ書くと、ネガティブな話だけ残ってしまう。

(サリ アビシエク 委員長)

- 過去の委員長あいさつでは必ず外国人数の話が入っていたため、それに倣って入れた。数字をここまで細かく言う必要はないかもしれない。

(リー ロイ ジャシュン 副委員長)

- 2段落目と5段落目をつないでもよい。「外国人数は一時的に減少したが今後は回復が見込まれ、実際に住んでいる外国籍県民は国籍の多様性が増している」など、人口と多様性の2点で語った方がよい。

(楊 芳 副委員長)

- 「10の国と地域の～スタートしました。」という文の前に「当初からリモートで開催」という記載があるため、順番が逆に感じる。「今期の県民会議は、このような状況の中でリモートで開催されることになりました。10の国と地域の出身者15名で2020年10月に活動をスタートしましたが、対面で会えたのは最近のことです。」としてはどうか。

(サリ アビシエク 委員長)

- よいと思う。

(河 相宇 委員)

- 「事務局を務めていただいた神奈川県に感謝します。」とあるが、懇話会からも助言をいただいたので、追記してはどうか。また、事務局を務めていただいたという意味では、国際課と明記してもよいと思う。

(サリ アビシエク 委員長)

- 了解した。

(バックマン ジェイサン マシュー 委員)

- ・ オープン会議の参加者についても追記した方がよいのではないかと。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ そのとおりだと思ふ。修正して事務局にメールで送付する。
- ・ 報告式では、委員長あいさつと委員一同の文章両方を読むのか。

(事務局)

- ・ 委員一同の文章は読まない。委員長あいさつも、3分程度でまとめて話していただきたい。

(河 相宇 委員)

- ・ 知事に会うのは11月2日で確定か。時間帯は決まっているか。

(事務局)

- ・ 日程は確定ではないが、ほぼ間違いなくその日になると思ふ。
- ・ 時間帯は、午後4時40分から5時までを予定している。ただ、事前説明などを含め、1時間ほど早く集合していただくと考えている。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 委員一同のあいさつについて、何か御意見があれば伺いたい。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 細かい部分だが、3段落目の「また、国籍や親のルーツにかかわらず」という部分は「問わず」にしてはどうか。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 了解した。

(リー ロイ ジャシュン 副委員長)

- ・ 最後の段落の「外国籍県民かながわ会議は今後新しい局面を迎えることと存じ」とあるが、「新しい局面」とは何か。

(楊 芳 副委員長)

- ・ イメージとしては、我々の提言は外国籍県民の生活だけをよくするだけではなく、結果として社会全体をよりよくする力が発揮できるのではないかと、という意味で「新しい局面」と書いた。

(リー ロイ ジャシュン 副委員長)

- ・ 4 段落目は伝えたいメッセージが明確だと思ふ。ただ、この内容と「新しい局面」という言葉とのつながりが分かりづらい。4 段落目の内容をまとめて最後の段落で強調できると、印象に残ると思ふ。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 最後の段落に今おっしゃっていたようなことを一言入れて、これが「新しい局面」という言葉につながると分かりやすくなると思ふ。

(事務局)

- ・ 最終報告の一部修正点について、事務局から説明したい。
- ・ 現在、目次にページ数が入ってしまっているが、削除する。
- ・ 目次の提言 8 に、「選挙権・被選挙権」という言葉を追加した。
- ・ 提言 1 の「この提言の趣旨は」で始まる文について、主語と述語が類似した内容になっていたため、述語部分を修正した。
- ・ 提言 2 については、前回の会議で佐々木委員が欠席であり、別途調整することとしていたが、事務局の修正案に御同意いただいた。
- ・ 提言 4 の備考欄に記載された URL について、URL 変更によるリンク切れが発生していたため修正した。
- ・ 提言 5 で「アクセス可能なチャンネルを開く」という言葉があったが、意味が伝わりにくいため、「チャンネルを設ける」に修正した。
- ・ 提言 6 について、備考欄に「外国人住民のための子育て支援チャート」が載っていたが、提言の内容と子育て支援チャートのつながりがよく分からないという御意見があったので、本文中に入れ込む形とした。
- ・ また、情報発信の方法として「こんにちは神奈川」だけでなく「かなチャンTV」も入れた方がよいという話があったので、追加した。
- ・ 提言 11 で、「インターナショナル・コースを紹介」という文があったが、提言の趣旨に合わせて「導入」に修正した。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 先ほどの委員一同あいさつについて、最終段落の一行目を修正した。「国籍の垣根を飛び越えた問題提起と解決の提言を行う場として」を「外国籍県民に関するものにとどまらず、社会全体の問題解決にもつながる提言を行う場として」に変えたが、どうか。

(リー ロイ ジャシュン 副委員長)

- ・ 4段落目の最後と内容が重なってしまう。最後の一文をそのまま下の段落に持ってきてはどうか。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 「12期以降も」の文を最後の段落に移動する形で修正する。

(河 相宇 委員)

- ・ 事務局に質問したい。提言した後は内容を公表し、知事及びその他の執行機関は可能な限り、県民会議の要請に対応することとなっている。
- ・ 各提言の対応状況について、知事から話が来るのか、どのような動きになるのか確認したい。

(事務局)

- ・ 知事に対して最終報告を提出するが、提言の個別の内容については、県の各部局の方で、実現可否や課題、実現方法等を検討する。
- ・ 各部局の検討内容を施策化状況として取りまとめ、年1回ホームページで公表している。

(河 相宇 委員)

- ・ 年1回というのは、いつぐらいのタイミングか。

(事務局)

- ・ 何月に行うと決まっているわけではないが、昨年度は3月に載せた。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 提言によって担当部署が違うというのは当然だが、各部署が情報を更新するのか。それとも、どこかの部署がまとめて更新するのか。

(事務局)

- ・ 国際課から担当部署に照会し、回答を一覧に取りまとめて更新する。

(鈴木 クリスチーナ 美幸 山本 委員)

- ・ 次期の委員は、今期とは異なる新たな提言を作ることになるのか。

(事務局)

- ・ 基本的にはそうである。

(バックマン ジェイサン マシュー 委員)

- 完全に新しいものを作るのではなく、一部を変える方法もある。

(仲田 シリワン 委員)

- 前期は外国人子育て広場について提言した。今期は外国人子育て広場にボランティアが足りないため、ボランティアを増やす提言を考えた。

(サリ アビシエク 委員長)

- 次期の委員が何を提言したいかにもよる。過去の提言で実現されていないものについて、どうやったら実現できるか考える手もあると思う。

(リー ロイ ジャシュン 副委員長)

- 過去の提言の中身を深める方法もある。我々がすべての外国人の状況を把握しているわけではないので、委員が入れ替わることも大事。
- 今期の委員に難民の方はいないと思うが、例えばウクライナ避難民の方が委員になれば、難民問題も取り上げられるのではないかと思う。

(サリ アビシエク 委員長)

- 前期は労働問題で困っていた委員がいて、本人に強い意向があつて労働問題に関する提言を入れた。各委員の意見が大事なので、皆さんの意見を反映しながら、提言を作っていたけるとよい。

(鈴木 クリスチーナ 美幸 山本 委員)

- 委員の募集期間が短い。もうすぐ締め切りが来てしまう。

(事務局)

- 各委員の手に、第12期の委員募集のチラシを配付した。9月末から募集していて、10月31日が締め切りとなっている。
- 2期までは連続で委員を務められるので、第11期から新たに委員になった方は、是非継続していただけるとありがたい。
- 継続希望の方は、インターネットで申込みをお願いしたい。
- チラシの裏に応募用紙があるので、郵送していただいてもよい。

(サリ アビシエク 委員長)

- 続いて、「あーすフェスタかながわ」の話に移りたい。企画委員長である佐々木委員から説明をお願いしたい。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ あーすフェスタは、日中韓市民交流フェスタを発展させて2000年から始まった。知っている限りでは、行政と民族団体が協働で実施しているイベントは他にない。神奈川県として特色あるイベントだと思う。
- ・ 2019年まで本郷台のあーすぷらざで実施していた。2019年に20周年を迎えたが、2020年はコロナで中止、2021年はオンライン開催だった。
- ・ 今年は場所を変えて、神奈川県庁の本庁舎と象の鼻パークで、対面開催することになった。
- ・ 過去の来場者は、1番多いときで2日間で2万人の実績。今年会場が変更となりスペースも狭いため不明だが、少なくはないと思う。
- ・ 今年の企画委員は78名で、4つの部会に分かれている。日本の大学生が5割を超えており、外国籍県民、NPO団体などが入っている。
- ・ 4つの部会はフォーラム部会、パフォーマンス部会、ワークショップ部会と広報部会。フォーラム部会は、多文化共生について考えるフォーラムを実施する。パフォーマンス部会は、ステージを中心に、外国の舞踊や楽器といった企画を実施する。ワークショップ部会は、外国の工作、折り紙、お茶などを体験する企画が集まっている。広報部会は、チラシ、ポスター作成などの広報の役割を担っている。
- ・ 今回、パフォーマンス部会から、吉本興業の漫才師、島岡マヌー氏と県民会議とのコラボレーション企画を行いたいという提案があった。
- ・ 先日、県民会議の事務局、あーすフェスタの事務局、アビ委員長及び私で打合せをした。その打合せで県民会議側の窓口を担う方がいないと動きにくいという話があったので、楊委員、唐委員、鈴木委員、リディア委員に声をかけたところ、御了承いただいた。
- ・ 事前準備として、漫才師の方との打合せや、県民会議側が話す内容の作成がある。当日参加できる方は全員登壇して、漫才師とコラボレーションしたり、代表者が発言するといったことを考えている。
- ・ スケジュールが遅れ気味だが、この場で発表内容についての意見をいただきたい。今日話した内容を踏まえて、あーすフェスタ側と改めて打合せをする。
- ・ 県民会議の代表者には企画委員会に参加していただきたい。企画委員会終了後に部会別会議を行うので、パフォーマンス部会の柳部

かいちょう まんざいし かた ちよくせつはなし こんご かいいていど うちあわ ひつよう
会長や漫才師の方と直接話をする。今後、3回程度の打合せが必要。
もちじかん は30分間の予定だが、30分より短くてもよい。午後のどこ
かで時間をもらう。県民会議として参加することが1番の目的だと思う。

なかだ シリワン いいん
(仲田 シリワン 委員)

りゅうぶ かいちょう 民族衣装を一緒に持ってきてほしいと連絡が
来たが、企画委員会に参加したことがないため、全然内容が分からない。

(サリ アビシエク いいんちょう
委員長)

すごく楽しいイベントなので、登壇したからと言って、必ずしも
漫才師と絡んで話さなければいけないわけではなく、いろいろな国の
民族衣装を着て参加するという形でもよいと思う。

なかだ シリワン いいん
(仲田 シリワン 委員)

どこで着替えたらいいか。

ささき せいしやう いいん
(佐々木 聖壘 委員)

着替える場所はある。

(リディア ワンタ いいん
委員)

打合せは対面か、オンラインか。

ささき せいしやう いいん
(佐々木 聖壘 委員)

どちらでもよい。次回の企画委員会は、11月10日の夜7時。県民セン
ター2階のホールに来ていただくか、Zoomでの参加になる。

よう ほう ふくいんちょう
(楊 芳 副委員長)

漫才師の方とコラボするのは、県民会議のPRが目的なのか、それと
も今期の提言の内容を知らせるのが目的か、どちらになるのか。

ささき せいしやう いいん
(佐々木 聖壘 委員)

今期の提言の内容を知らせることがメインと 考えてよいと思う。

じむきよく
(事務局)

イメージとしては、漫才師の方からインタビューしてもらいたい感じか。

ささき せいしやう いいん
(佐々木 聖壘 委員)

それもまったく決めていない。

- どういう形でも構わないとのことで、まずこちら側が何をしたいか、何を話したいのかを提案して、それに合わせてくれる形になる。

(仲田 シリワン 委員)

- 次回の企画委員会の内容を教えてほしい。

(佐々木 聖壘 委員)

- 後でメールを送付する。

(金 愛蓮 委員)

- オンラインで参加できるなら、企画委員会に参加してみたい。

(サリ アビシエク 委員長)

- 金委員はイベント当日に参加できるか。

(金 愛蓮 委員)

- 企画委員会の内容を聞いてから考える。

(仲田 シリワン 委員)

- 当日は何時から何時までか。

(佐々木 聖壘 委員)

- 現在の予定は、12時から14時の間の30分間。
- ステージ発表はどのような内容がよいか。私が1点危惧しているのは、この会議は正式に知事まで提言するような会議だが、漫才で笑わせるために一部の方の気持ちを傷つけるような内容となっては本末転倒である。そこだけは気を付けた方がよいと思う。

(仲田 シリワン 委員)

- 以前のあーすフェスタは室内と屋外の会場があった。今回はどうか。

(佐々木 聖壘 委員)

- 基本的に屋外である。フォーラムだけは県庁の本庁舎内で行うが、他は全部象の鼻パークで実施する。

(楊 芳 副委員長)

- 今期は11個の提言があるが、全部紹介しようとすると難しい。漫才師の方は御夫婦でコンビと伺ったが、お子さんはいるのか。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ いない。

(楊 芳 副委員長)

- ・ お子さんがいたら、提言4を取り上げて、日本の小学校のルールを知らずに面白いことが起きたみたいな感じで、二人で漫才みたいなものをやってもらって、今回こういうことを提言しました、他にもこういった提言がありますよ、と口頭で紹介できるのではないかと考えた。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ 部会が2つあるので、情報部会と人権・教育部会の代表者から、それぞれ5分程度で話すような形でもよいのではないかと思う。

(楊 芳 副委員長)

- ・ それはインタビューみたいな感じか。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ インタビュー形式が一番無難ではないかと思っている。
- ・ 我々が話して、本当に漫才という形でできるかどうか分からない。

(鈴木 クリスティーナ 美幸 山本 委員)

- ・ 各部会の代表者がインタビューを受けるような形になるのか。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ そうである。他に発言希望者がいれば、時間を設けてもよいと思う。
- ・ 我々が何を聞かたいのか、その内容に応じて質問を作って、その質問を島岡氏に伝えて、当日聞いてもらうという形でもよいと思う。

(楊 芳 副委員長)

- ・ 30分ずっとインタビューなのか。漫才もやるのか。

(佐々木 聖壘 委員)

- ・ 30分ずっとではない。

(サリ アビシエク 委員長)

- ・ 漫才の間でインタビューを挟む感じではないか。どのような構成にするかは、漫才師の方にも考えていただくことになると思う。

(佐々木 聖壘 委員)

- 本日はこれくらいにして、企画委員会の日までに、聞かれない内容や言いたい内容を考え、事務局に送ってもらうということによいか。

(事務局)

- 11月2日の報告式の日、少し早めに集まって話し合ってはどうか。

(佐々木 聖壘 委員)

- 私はそれでも大丈夫である。

(サリ アビシエク 委員長)

- その日は何時集合になるのか。

(事務局)

- 報告式が4時40分からなので、3時ぐらいに集まってはどうか。

(佐々木 聖壘 委員)

- あーすフェスタに関わる方で、早く来られそうな方は、3時に来てほしい。そこでまとまった意見を、11月10日の部会別協議の中で、パフォーマンス部会の柳部長や島岡氏に伝えることとする。

(サリ アビシエク 委員長)

- 本日は知事に最終報告を提出する前の最後の会議ということもあり、皆様の今までの尽力に感謝する。

- 会議の最後に、各委員から第11期の活動を通じた所感等を共有した。

(以上)